

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。急に気温が下がり、寒い日が続く今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も残すところあと1ヶ月。スポーツ界の今年1年を振り返ると、やはりこの人の事が思い出されます。それは皆様もご存じの【大谷翔平選手（LAドジャース所属）】です。今年最後の注目選手はやはりこの選手でしょう。メジャーリーグワールドシリーズではNYヤンキースを破り世界一に輝き、メジャー初となる『50-50』を達成し、

ナ・リーグのホームラン王を獲得。先日発表となった自身3度目となるリーグMVPを満票で選出され受賞の瞬間には、愛犬【デコピン】と真美子夫人とともに喜びの姿を見せてくれました。

数々のタイトルを獲得した大谷選手は、『来年はさらに上を目指して頑張りたいと思います。』とコメントしました。このコメントを聞いた時私は、一体どこまで上を目指していくのだろうと、脱帽の思いでいっぱいでした。私もさらなる飛躍を目指し、日々、少しでもご利用者様のお役に立てるよう精進して参る所存でございます。

皆様には今年一年、大変お世話になり、ありがとうございました。来年が皆様にとって幸多き一年となる事を心より願っております。

サンライズの物語

訪問入浴に携わり—— 利用者様の辛い思いを受け止め寄り添う物語



介護保険サービスには色々なサービスがある事は皆さんご存じだと思います。自宅で一人ではお風呂に入れなくなってしまった方々。辛い事です。

お風呂に入れなくなった方へ訪問入浴を提案してもなかなか受け入れて貰えない事が毎回あります。

そんな方へ、いつも伝える言葉は「訪問入浴に一度入ると感激され何度でも入りたくなるんですよ。私の母や夫の時も同じで最初は“嫌だよ”と言っていたのですが入った途端に“今度は何時入れるの”と何度も聞くようになる程気持ちがいいんですよ。一度試しに入ってみませんか」と・・・「そんなに勧めるなら入ってみようかな」との返事が返ってくるのが度々あります。

先日も初回入浴の時に私も同席したのですが、湯舟に入るなり「気持ちいいな～！背中が痒いんだよ」と連呼されておりました。訪問入浴職員の方々による専門職としての声掛けも素晴らしく、ご本人の興味のある世間話や趣味の話題にも事欠かないのです。

そんな場面に遭遇すると、思い出すのが母が訪問入浴を利用した時の事です。母はカラオケが大好きだと話すと職員が皆で母が大好きだった「千の風になって」を一緒に歌ってくれたのですが、なんと・・・母と同じ「音痴」でした。そんな声を聞きながら私は涙が止まらなくなった事を思い出します。

利用者様の辛い思いを受け止め一緒に寄り添う・・・素敵な一瞬に立ち会える介護職に携わった事を誇りに思います。

サンライズのデイサービス陽光だより



カレンダー製作

お花紙とリボンでリースを作り画用紙に飾り付けて作りました。



お誕生日

皆さんでお誕生日の歌を歌って誕生日カードをプレゼントさせて頂きました。おやつに手作りパンケーキをお出ししました。



NEWS 今月のニュース

年齢や障害も関係なく！安心なジオパーク目指し♪ 新潟県津南町でガイド研修、車いすの介助を体験

年齢や障害の有無にかかわらず誰でも安心して楽しめる「ユニバーサルツーリズム」の推進を目指し、新潟県津南町と長野県栄村にまたがる苗場山麓ジオパークの振興協議会などは11月16日、認定ガイドらの研修会を開いた。ガイドや町観光協会職員ら約20人が参加。車いすで訪れることができるジオパークのスポットを巡り、サポートの仕方などを学んだ。

苗場山麓ジオパークでは2024年度、ユニバーサルツーリズムを進めるため、鎮西学院大学（長崎県諫早市）の山口弘幸教授（46）が、苗場山麓ジオパーク事業の助成を受け、人材育成に関する調査研究をしている。研修会はその一環。山口教

授は2021、22年度に、高齢者や障害者が楽しめるツアーコース案を策定し、障害のある人らと実証をしてきた。

研修会では、津南町下船渡の農と縄文の体験実習館「なじよもん」で山口教授が講話。「『この場所からは介助者が必要』などの情報を発信し、障害のある人らが判断できる環境づくりが大事だ」といった心得を伝えた。

「柏崎ユニバーサルツーリズムセンター」の押見敏昭事務局長（59）と、南魚沼市を拠点に活動する福祉ボランティアチーム「よりそうスマイル」の高橋義信副代表（49）は「ハード面だけでなく、受け入れ側の心のバリアフリーが重要だ」と強調した。

実地研修はなじよもんのほか、川

の展望台と見玉公園で行った。参加者は交互に車いすに乗ったり介助したりして、ちょっとした段差や斜面が障壁になることを実感。車いすに取り付けて人力車のように引っ張る補助器具などを使うと、芝生の上でも楽に移動できることを体験した。

苗場山麓ジオパーク振興協議会ガイド部会の小島隆夫部会長（77）は「誰でも楽しんでもらえるよう、ガイドとして理解を深める必要があると感じた」と話していた。



<新潟日報 24/11/23 (土)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>